本研究大会では要綱配布を電子版のみによって行います。事前に本要綱をダウンロード、もしくはプリントアウトしていただくことを推奨します。

日本文化政策学会
第 19 回年次研究大会
「文化政策と公共性」

大会開催要綱
（最終版）

2025 年 12月20日（土）・21日（日）

会場　奈良県立大学

主催　日本文化政策学会

目次

開催にあたって 3

大会概要 4

本研究大会における情報保障の考え方 5

プログラム・スケジュール 6

12月20日（土） 8

企画フォーラム①～⑤ 8

昼休み 10

開会式及び表彰式 11

シンポジウム（一般公開） 11

懇親会 13

12月21日（日） 14

若手主催交流企画「朝活ミーティング」 14

分科会Ⅰ 14

ポスターセッション 17

理事会 19

総会 19

分科会Ⅱ 19

その他 22

発表者へのお願い 23

懇親会・昼食・宿泊 25

物販 27

アクセス 28

会場平面図 30

エクスカーション・プログラム 32

開催にあたって

日本文化政策学会は、2025 年度の研究大会を歴史と文化の都・奈良で開催する運びとなりました。

ウクライナ戦争やガザ紛争、さらには気候変動に伴う国際的不平等など、世界は深刻な分断と亀裂を露呈しています。日本においても、先の選挙を通じて社会の価値観の対立が顕在化しつつあります。こうした状況のもと、文化政策はどのような役割を果たし得るのか、文化を通じて公共性をいかに再構築できるのかを問い直すため、本大会では「文化政策と公共性」をテーマに掲げました。

本大会では、二つのシンポジウムを中心に議論を進めます。

シンポジウムⅠでは、グローバルな課題を視野に、ポストコロニアル／デコロニアルの視点から文化政策の可能性を検討します。取り上げる事例は、ドクメンタ 15、ベニン・ブロンズ返還問題、光州ビエンナーレ 2024、山口情報芸術センター［YCAM］の地域拠点での文化実践です。これらを手がかりに、文化政策が、世界の分断と差別に対して果たしうる役割について、第一線で活躍する国内外の研究者・実務家が領域横断かつ多角的に考察します。

シンポジウムⅡでは、「文化的コモンズ」をテーマに、奈良・関西地域の具体的な文化資源や活動の共有・継承の可能性を再考します。登壇者には、飯村有加氏（アートコーディネーター）、横堀ふみ氏（NPO 法人 DANCE BOX）、常盤成紀氏（堺市文化振興財団）を迎え、コーディネーターは吉本光宏氏（文化コモンズ研究所）、コメンテーターとして大澤寅雄氏（文化コモンズ研究所）・藤野一夫氏（神戸大学）が参加し、地域に根ざした実践と知見を交えた議論を行います。

本大会では、研究発表やフォーラムも多彩に企画されています。なかでも研究発表数は、40 件を超え、これまでにない数と時宜を反映した内容となっています。文化政策は行政や政府のみならず、多様な主体が関わりながら公共性を再構築していく営みです。本学会の理念が、多角的に語られる場となることを期待しています。

最後になりましたが、本研究大会の開催にあたりご尽力くださった関係各位に、プログラム委員会を代表して心より御礼申し上げるとともに、会員の皆様にお会いできることを楽しみにしております。

日本文化政策学会第 19 回年次研究大会 プログラム委員長

吉田　隆之

大会概要

日　時　　2025 年 12 月 20 日（土）・21 日（日）

会　場　　奈良県立大学（奈良市船橋町 10 番地）

参加費　　会員（一般・学生ともに）：1,000 円

非会員（一般・学生ともに）：3,000 円

※　当日申込は各 1,000 円増

※　シンポジウム、企画フォーラム、若手ポスターセッションは無料一般公開

※　介護・通訳等が必要な参加者 1 名（有料）につき、介護者・通訳等 2 名までの大会参加費無料（参加者ご自身の参加申込（有料）の際に、あわせてお申し込みください）

懇親会費　一般（会員・非会員ともに）：6,000 円

社会人学生（学業とは別にフルタイムの職業に就く者、会員・非会員ともに）：4,000 円

その他学生（会員・非会員ともに）：2,500 円

申込み　　お申込みフォーム (https://peatix.com/event/4628689)

申込締切　12 月 6 日（土）18 時まで（厳守）

主　催　　日本文化政策学会

◎参加申込／入会申込に関する問合せ先

日本文化政策学会事務局

〒164-0001 東京都中野区中野 4-10-2

中野セントラルパークサウス 2F

日本文化政策学会事務局（美学出版 LLC 内）

TEL：03-5005-0677 FAX：03-6775-3433

E-mail：jacpr_office@jacpr.jp ／URL：http://www.jacpr.jp/

◎発表／プログラム等に関する問合せ先

日本文化政策学会第 19 回年次研究大会実行委員会事務局

〒630-8258 奈良市船橋町 10 番地

奈良県立大学　地域創造学部　風間勇助研究室

E-mail: jacpr2025nara@gmail.com

※e-mail でのお問い合わせにご協力をお願いいたします。

※事務局は非常勤につき、問い合わせの返信は数日お時間いただきますが、ご了承ください。

本研究大会における情報保障の考え方

情報アクセシビリティとは「年齢や障害の有無等に関係なく、誰でも必要とする情報に簡単にたどり着け、利用できること」をいいます[1]。日本文化政策学会では、研究大会における障害者等への情報提供の方法（情報保障）についても、検討を重ねています。

本研究大会では現時点での参加者（発表者・聴講者／会員・非会員）への情報保障の選択肢として、UD トーク[2]による対応を想定しております。その他の情報保障についても、必要に応じて、学会の予算上可能な範囲で、対応できればと考えております。

準備のため、情報保障の申請〆切を、通常の参加申込〆切より早めに設定しております。また、予算等の都合上、全会場ではなく、参加者が希望された範囲での情報保障になることをご了承ください。

情報保障申請フォーム（11 月 21 日（金）締切）
https://forms.gle/2Y4XDGrTGxBRTrg79

なお、情報保障のために取得した文字おこしテキスト等の情報については、2025 年 10 月現在、情報保障が必要な当事者への対応を除いた使用予定はございません。もし、今後大会記録の作成や公開等を検討する場合は、改めて関係者の皆様に許諾のご連絡を差し上げます。公開等を行わない場合は、情報保障のために収集されたデータは大会終了後に破棄いたします。

◎情報保障に関する問合せ先

日本文化政策学会第 19 回年次研究大会実行委員会事務局
〒630-8258 奈良市船橋町 10 番地
奈良県立大学　地域創造学部　風間勇助研究室
E-mail: jacpr2025nara@gmail.com

---

[1] 東京都福祉局「障害者への情報提供の方法（情報保障）」https://www.fukushi.metro.tokyo.lg.jp/tokyoheart/jouhou/index.html　（2025 年 10 月閲覧）

[2] UD トーク：音声認識と自動翻訳を活用した生活やビジネスの様々なシーンで活用できるアプリ。聴覚障害者への文字情報提供にも使われる。https://udtalk.jp/about/　（2025 年 10 月閲覧）

プログラム・スケジュール

＜全体日程＞

日時		内容	場所
12/19（金）	12:30 ～17:15	エクスカーション「継続する日本文化　古代から伝える」（明日香村コース）	近鉄大和八木駅集合・解散
12/20（土）	9:30	受付開始	3 号館 1 階入口
	10:00 ～12:00	企画フォーラム①～⑤	コモンズ棟 1,2 階（C101, C201・202, C203・204, C205・206, C207・208 教室）
	12:00 ～13:00	昼休み	
	12:05 ～12:55	若手主催交流企画「学会ビギナーズ・ランチミーティング」	1 号館 1 階学生食堂
	13:00 ～14:05	開会式及び表彰式	3 号館 2 階多目的ホール
	14:15 ～16:45	シンポジウム 1「世界の分断と差別に文化政策はどう応答できるのか―アートとポストコロニアルの視座」	3 号館 2 階多目的ホール
	17:00 ～18:40	シンポジウムⅡ「文化的コモンズ再考―文化資源の領域横断的な共有と活用」	3 号館 2 階多目的ホール
	19:30 ～21:30	懇親会	カフェ エトランジェ・ナラッド
12/21（日）	7:30 ～9:00	若手主催交流企画「朝活ミーティング」	1 号館 1 階学生食堂
	9:15	受付開始	3 号館 1 階入口
	9:45 ～12:00	分科会Ⅰ	コモンズ棟 1,2 階（C101,C201・202, C203・204, C205・206, C207・208 教室）
	12:00 ～13:10	昼休み	
	12:10 ～12:55	ポスターセッション コアタイム	コモンズ棟 3 階
	12:10 ～12:55	理事会	3 号館 2 階多目的ホール

	13:10 ～13:50	総会	コモンズ棟 1 階 C101 教室
	14:00 ～16:55	分科会Ⅱ	コモンズ棟 1,2 階 （C101,C201・202, C203・204，C205・ 206, C207・208 教室）
12/22 （月）	9:00 ～12:00	鹿寄せ・にぎり墨体験ツアー	奈良国立博物館前 ～古梅園解散

12月20日（土）

企画フォーラム①～⑤

時　間：10:00～12:00
会　場：コモンズ棟 1 階 C101，2 階 C201・202，203・204，205・206，207・208 教室

企画フォーラム①（会場：C101 教室）
「評価をめぐる自治体と現場の分断 ～なぜ評価は有効に働かないのか～」

企画代表者：
鬼木和浩（横浜市役所）
大澤寅雄（文化コモンズ研究所）
モデレーター：
大澤寅雄（文化コモンズ研究所）
パネリスト：
鬼木和浩（横浜市）
中村美亜（九州大学）
吉本光宏（文化コモンズ研究所）
協力（予定）：
一般財団法人地域創造

企画フォーラム②（会場：C201・202 教室）
「なぜ劇場に女性管理職が少ないのか －登用と研修から考える劇場の未来－」

企画代表者：
赤木舞（武蔵野音楽大学）
登壇者：
大久保充代（八尾市文化会館プリズムホール）
小倉由佳子（ロームシアター京都）
山田里子（ミューザ川崎シンフォニーホール）
コメンテーター：
森岡 めぐみ（公益財団法人神戸市民文化振興財団）
進行：
林 立騎（那覇文化芸術劇場なはーと）
共同研究者：
梶田 美香（名古屋芸術大学）
志村 聖子（オランダ・ライデン大学）

高島 知佐子（静岡文化芸術大学）
中根 多恵（愛知県立芸術大学）
閔 鎭京（北海道教育大学）
横堀 応彦（跡見学園女子大学）

企画フォーラム③（会場：C203・204 教室）
「地域における在日コリアンミュージアムと多文化共生の意義：文化政策の観点からの位置づけ、再定義を試みる」

企画代表者：
閔鎭京（北海道教育大学）
登壇者：
伊地知紀子（大阪公立大学／大阪コリアタウン歴史館理事）
宋悟（いくのパーク理事）
郭辰雄（コリア NGO センター代表）
コメンテーター：
中川幾郎（帝塚山大学）
上野 貴彦(都留文科大学)
共同研究者：
山口祐香(九州大学)

企画フォーラム④（会場：C205・206 教室）
「都市計画分野と文化政策分野における中間支援組織の役割の比較　：アーバンデザインセンターと地域アーツカウンシルの連携の可能性」

企画代表者：
岡田潤（東京大学）
登壇者：
岡田潤（東京大学）
松本隼樹（東京大学）
杉崎栄介（横浜市芸術文化振興財団）
野村政之（信州アーツカウンシル）
三牧浩也（UDC イニチアチブ）
山下裕子（全国まちなか広場研究会）
共同研究者：
松本隼樹（東京大学）

企画フォーラム⑤（会場：C207・208 教室） 「アートは地域に何をもたらすのか？ーオルタナティブな公共性の創造ー」
企画代表者： 藤原旅人（東京藝術大学） 共同研究者： 小坂有資（香川大学） 後藤努（アート芸術祭研究家） 藤原旅人（東京藝術大学） 吉水由美子（アートコミュニケーター/独立研究者） 三宅美緒（アートコミュニケーター/独立研究者）

昼休み

若手主催交流企画「学会ビギナーズ・ランチミーティング」

初めて学会に参加される方は、なかなか所在なく、交流が難しい現状があると考え、学会ビギナーズでも気兼ねなくベテラン研究者と交流できる機会をつくりたいと考えました。学会ビギナーズや若手研究者、これから研究を始めたい方など、大歓迎です。ベテラン研究者の方々も是非交流にいらしてください！

楽しくランチしながら、知り合いや研究仲間を増やしましょう。

日時：12 月 20 日（土）12:05～12:55
場所：1 号館 1 階学生食堂
参加費：1 人 1,500 円（お弁当＋ワンドリンク、当日会場で現金にて徴収）
※申込締切後のキャンセルはキャンセル料として全額お支払いいただきます。
申込先：https://forms.gle/gR7bPWtpXFR4qCKu8
定員：30 名（要申込）、**申込締切：2025 年 12 月 12 日（金）**

主催者：日本文化政策学会　第 19 回年次研究大会　若手主催交流企画　企画委員
企画委員メンバー：石田絵里香（関西大学）、岡田潤（東京大学）、倉脇雅子（お茶の水女子大学グローバルリーダーシップ研究所）、萩原昌子（九州大学）、蓮見日向（レスター大学）、長谷川仁美（FIKA アーティストインレジデンス）、肥後楽（大阪大学）、松本桜子（公益財団法人札幌市芸術文化財団）、吉水由美子（アートコミュニケーター/独立研究者）

問い合わせ先：ランチミーティング企画代表　肥後楽（mail: k.higo.elsi@osaka-u.ac.jp ）

開会式及び表彰式

開　場：12:30
時　間：13:00～14:05
会　場：3 号館 2 階多目的ホール

開会式
　開催地歓迎挨拶：尾久土正己（奈良県立大学学長）
　開会挨拶：小林真理（日本文化政策学会会長／東京大学）

学会賞表彰式
　審査員コメント：中村美亜（第 4 回学会奨励賞審査委員長／九州大学）
　賞状授与：小林真理（日本文化政策学会会長／東京大学）
　受賞者スピーチ：韓河羅（神戸大学）
　　岡田潤（東京大学）

シンポジウム（一般公開）

時　間：14:15～18:40
会　場：3 号館 2 階多目的ホール

シンポジウムⅠ　（時間：14:15～16:45）
「世界の分断と差別に文化政策はどう応答できるのか―アートとポストコロニアルの視座」

　ウクライナ戦争やガザ紛争、排外的ナショナリズムの高まりなど、世界はいま、分断と差別の構造を露呈させており、欧米中心主義や多文化主義の限界も指摘されています。こうした現代的課題に対して、本シンポジウムでは、ポストコロニアルという視座を手がかりに、文化政策が分断・差別に対して果たしうる役割について多角的に考察します。
　とりわけ注目すべきは、2022 年に開催されたドクメンタ 15 です。インドネシアのアーティスト・コレクティブ「ルアンルパ」のディレクションのもと、この芸術祭は西欧中心のキュレーションの枠組みを脱し、芸術祭のあり方そのものを根本から問い直す契機となりました。さらに、ベニン・ブロンズの返還問題をめぐるドイツの文化政策も、ポストコロニアルな視点からの文化資源の再配分という論点を社会に提起しています。

一方、日本の文化政策においては、脱植民地主義的な視座は依然として周縁的な位置にとどまっているのが実情です。本シンポジウムでは、韓国と日本の文化的関係性や光州ビエンナーレの歴史的文脈、日本の地域拠点でのアートと学びの実験的取り組みにも注目しながら、文化政策の可能性と課題について議論を深めます。

基調講演：
　オズレム・ジャンユレク（ツェッペリン大学）
パネラー（報告）：
　秋野有紀（早稲田大学）
　山本浩貴（実践女子大学）
　レオナルド・バルトロメウス（山口情報芸術センター［YCAM］）
コーディネーター：
　吉田隆之（大阪公立大学）
　藤野一夫（神戸大学）

シンポジウムⅡ　（時間：17:00～18:40）
「文化的コモンズ再考―文化資源の領域横断的な共有と活用―」

「文化的コモンズ」とは、地域の人々が世代を超えて共有・継承していく文化資源、場、活動などを指す概念です。今日、それはアートやまちづくりといった領域と結びつきながら、地域の文化的公共性を支える新たな基盤として再注目されています。本シンポジウムでは、「文化的コモンズ」概念の系譜を踏まえつつ、現代の文化政策や地域実践との関係を再検討します。また、奈良を拠点に継続的に実践を重ねてきたコーディネーターの経験をもとに、文化資源の持続的な共有と活用のあり方について具体的な議論を行います。

パネラー（事例報告）：
　飯村有加（アートコーディネーター）
　横堀ふみ（NPO 法人 DANCE BOX）
　常盤成紀（堺市文化振興財団）
コーディネーター：
　吉本光宏（文化コモンズ研究所）
コメンテーター：
　大澤寅雄（文化コモンズ研究所）
　藤野一夫（神戸大学）

懇親会

時　間：19:30～21:30

会　場：エトランジェ・ナラッド（〒630-8228 奈良県奈良市上三条町 23－4 内　観光センター「ナラニクル」）

12月21日（日）

若手主催交流企画「朝活ミーティング」

本大会では、研究者同士の新たな交流と共同研究の創出を目的とした「朝活ミーティング」を開催します。本企画は、参加者が自らの専門や関心、得意なアプローチを短く紹介し合うことから始まり、興味・問題意識の近い仲間同士がつながる“マッチングの場”となるものです。後半には、小グループで共同研究のテーマづくりに取り組むミニ・ワークショップを行い、最後に成果を共有します。通常のセッションでは得られない、分野横断的で気軽な対話の機会として、若手からベテランまで幅広い方々の参加を歓迎します。

日時：12 月 21 日（日）7:30～9:00
場所：1 号館 1 階学生食堂
参加費：無料
申込先：https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLScHfA7t6DBy-Y_NZkMLKQ9IpUj3bJMsJpcF0-igrHEFaPw8wQ/viewform?usp=dialog
申込締切：2025 年 12 月 12 日（金）
※温かい飲み物は準備させていただきますので、朝食を持参して食べながらの参加でもかまいません。

問い合わせ先：朝活ミーティング企画代表　岡田 潤（mail: 9566154447@edu.k.u-tokyo.ac.jp ）

分科会 I

時　間：9:45 ～ 12:00（①9:45 ～ 10:15、②10:20 ～ 10:50、③10:55 ～ 11:25、④11:30～12:00）　※分科会 I -D のみ 10:20 開始
会　場：コモンズ棟 1 階 C101 教室、コモンズ棟 2 階 C201・202, C203・204, C205・206, C207・208 教室

分科会 I －A　文化政策（会場：C101 教室）
座　長：藤野一夫（神戸大学）
副座長：鬼木和浩（横浜市役所）

発表者：
1．荒益克文（大阪公立大学大学院都市経営研究科・博士前期課程 2 年）
「文化政策における質的調査を用いたセオリー評価－奈良市における試行的検討－」

2. 松本隼樹（東京大学大学院人文社会系研究科文化資源学研究専攻・博士課程２年）
「自治体文化行政の推移と「公共(性)の文化化」」
3. 笠井康平（東京大学大学院人文社会系研究科文化資源学研究室・博士課程１年）
「AI を活用した文化政策・経営研究におけるスコーピング・レビューの試み」
4. 岡本彩（東京大学大学院人文社会系研究科文化資源学研究専攻文化経営学専門分野・博士課程２年）
「国立劇場伝承者養成事業の制度化とその構造」

分科会Ⅰ－B　文化の継承（会場：C201・202 教室）
座　長：井上敏（桃山学院大学）
副座長：阪本崇（京都橘大学）

発表者：
1. 小島瑞希（東京大学大学院公共政策学教育部国際公共政策コース・修士２年）
「日本の近現代建築資料をめぐる国内保護政策の形成と海外収蔵のプロセス」
2. 奥野耕平（同志社大学研究開発推進機構・特別任用助手）
「文化遺産における有形・無形要素の統合的アプローチの構築に向けて －「京都市産寧坂」重要伝統的建造物群保存地区を中心に」
3. 髙橋憲人（弘前大学教育学部附属次世代ウェルビーイング研究センター・助教）
「忘れられた近代漆芸技法「蠟纈塗」の再定位―小岩峻と弘前の工芸教育を手がかりに―」
4. 倉脇雅子（お茶の水女子大学グローバルリーダーシップ研究所・特任講師）
「「東寺音舞台 2023」にみる文化遺産活用型芸術イベントの国際的展開と文化政策的意義」

分科会Ⅰ－C　社会包摂（会場：C203・204 教室）
座　長：中村美帆（青山学院大学）
副座長：長津結一郎（九州大学）

発表者：
1. 谷口彩（SAI Co-Cre Labo 共創型プロジェクトマネージャー）
「芸術文化における見えない障害と権利保障に関する研究」
2. 槇原彩（九州大学大学院芸術工学研究院・助教）
「精神保健医療福祉領域における芸術実践の意義：地域とつながるプラットフォー

ムとして」

3. 堀内まゆみ（札幌大谷大学・専任教員）
「イギリスのコミュニティダンスにおける「Disability」の議論 ―コミュニティダンス雑誌 Animated （1997～2020 年）の分析を手がかりに」

4. 川井田祥子（鳥取大学・教授）
「幼児期における表現活動の意義～創造都市・高松での芸術士の役割～」

分科会Ⅰ－D　文化施設（会場：C205・206 教室）

座　長：松本茂章（文化と地域デザイン研究所）
副座長：宮崎刀史紀（港区スポーツふれあい文化健康財団）

発表者：

1. （発表者なし）
2. 松岡歩未（東京大学大学院人文社会系研究科・修士 2 年）
「公立文化施設における複合化のプロセスと既存施設への課題意識に関する調査」
3. 前田翠（東京大学大学院人文社会系研究科文化経営学専攻・ 修士 2 年）
「企業がつくる演劇文化に関する考察―西武劇場・パルコ劇場を事例としてー」
4. 岩井千華（國學院大學栃木短期大学）
「学校図書館の課題」

分科会Ⅰ－E　地域と文化活動（会場：C207・208 教室）

座　長：熊倉純子（東京藝術大学）
副座長：片山泰輔（青山学院大学）

発表者：

1. 金子松美香（大阪公立大学大学院都市経営研究科・修士 2 年）
「コンタクト・ゾーンとしての美術館 ―つなぎ美術館を事例に」
2. 王曼黎（東京藝術大学国際芸術創造研究科・博士後期課程 2 年）
「ストリートシアターにおける「場所性」の研究―都市空間とパフォーマンスの相互構築について」
3. 有原千尋（公立小松大学大学院サステイナブルシステム科学研究科・博士後期課程 2 年）
「企業による芸術文化と社会の接点はいかに評価できるか ―地域との共創に着目してー」

4. 加藤康子（北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院・研究員）
「趣味縁の拠点の中間支援団体機能について」

ポスターセッション

時　間：12:10～12:55　コアタイム
会　場：コモンズ棟３階

1	花房真理子（慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科政策・メディア専攻・後期博士課程３年）	架空の舞踊「麦端踊り」－富山県南砺市城端地区を事例に－
2	剱物真桜（同志社大学大学院総合政策科学研究科・修士１回生）	地域文化の創造と発展において異文化交流が果たす機能に関する研究　―京都市における文化事業を事例に―
3	野末紗也子（立教大学大学院社会学研究科・修士２年）	障害のある人を含むダンス活動における共に踊る可能性の創出について
4	姫子松優佑、伊藤徳久、岩見駿佑、住野なつ美、田中千恵梨、上杉草太、小村啓太郎(以上、奈良県立大学地域創造学部 ３・４ 年生)	芸術系大学ではない大学でアートを学ぶとは～屋台「まにまに」制作を事例に
5	中村汐里（立教大学社会学研究科・修士１年）	漆産地の生態系――地域資源と文化制度の狭間におけるアクターの結びつき――
6	金山 紅香（東京大学大学院 人文社会系研究科 文化資源学研究専攻 文化経営学コース・修士１年）、松岡歩未、前田翠（以上、東京大学大学院 人文社会系研究科・修士課程）、互 日向子（東京大学文学部・４年）、加藤葉月（東京大学文学部・卒業生）	国立・民間の歌舞伎上演演目比較
7	横山ちひろ（青山学院大学・総合文化政策学部・３年）、吉丸侑里、和久井彩愛（以上、青山学院大学総合文化政策学部文化演習ＩＢ履修生）	芸術文化振興計画における多様な市民の参加－東京都小金井市を事例に－
8	李紫涵（九州大学芸術工学府・修士２年）	地域社会における子どもの表現教育講座の役割 ー福岡県筑後市の「えんげきひろば」を事例にー
9	松野 仁志（東京都立大学大学院 システムデザイン研究科 インダストリアルアート学域 ・修士２年）、田中 雅子（宇城市不知火	AI との対話を通じた専門知の構造化プロセス：〈海にねむる龍――働正がのこしたもの〉展の情報展示を事例に

	美術館 キュラトリアルアドバイザー）、楠見清（東京都立大学大学院 システムデザイン研究科 インダストリアルアート学域）	
10	原田希（青山学院大学総合文化政策学部総合文化政策学科４年）	地理的制約を受ける住民の鑑賞機会　～都道府県立美術館による「移動美術館」を事例に～
11	渡邊麻里（大阪市立大学大学院・博士後期課程３年）	博物館学芸員のキャリア・トランジションと学芸員制度についての考察
12	田中庸照（東京大学大学院人文社会系研究科文化資源学研究専攻文化経営学コース・修士１年）、飯岡遼（町田市立博物館）、笠井康平(東京大学大学院人文社会系研究科文化資源学研究室・博士課程１年）、溝上心太(東京大学大学院人文社会系研究科文化資源学研究室・博士課程１年）、小島瑞希(東京大学大学院公共政策学教育部国際公共政策コース・修士２年)	博物館の寄付会員制度について
13	大坪廉（立教大学大学院 社会学研究科 ・修士１年）	グラフィティが社会に問うているのは何か:社会制度と公共性から見る社会運動としてのグラフィティ
14	GAO PEIYAO（九州大学大学院芸術工学府・博士２年）	アートプロジェクト現場から見る協働関係の「深化」： 作品における「非アーティスト的語り」に焦点する
15	楠元花実（神戸大学大学院人間発達環境学研究科人間発達専攻２年）	日本の国際ピアノコンクールを通じた地域活性化の可能性　ー高松･浜松･仙台の事例からー
16	木下紘呂（東京大学大学院人文社会系研究科文化資源学研究専攻・修士課程１年）、岡本彩（東京大学大学院人文社会系研究科文化資源学研究専攻・博士課程 ２ 年）、松本隼樹（東京大学大学院人文社会系研究科文化資源学研究専攻・博士課程 ２ 年）、秋元幸多（東京大学大学院人文社会系研究科文化資源学研究専攻・修士課程 ２ 年）、原晶穂（東京大学大学院人文社会系研究科文化資源学研究専攻・修士課程２年）	都心部の廃線遺構における訪問者体験の分析ー東京都港湾局専用線晴海橋梁を事例に

理事会

時　間：12:10～12:55
会　場：3 号館 2 階多目的ホール

総会

時　間：13:10～13:50
会　場：コモンズ棟 1 階 C101 教室

分科会Ⅱ

時　間：14:00～16:55（①14:00～14:30、②14:35～15:05、休憩 15:05～15:15、③15:15～15:45、④15:50～16:20、⑤16:25～16:55）
会　場：コモンズ棟 1 階 C101 教室、コモンズ棟 2 階 C201・202, C203・204, C205・206, C207・208 教室

分科会Ⅱ－A　人材育成とエンパワメント（会場：C101 教室）
座　長：吉本光宏（文化コモンズ研究所）
副座長：菅野幸子（AIR Lab）

発表者：

1. 荒木秀典（表現教育者/文化庁企画調整課）
   「演劇的手法は主権者教育にどのような効果をもたらすのか～Act&Vote の実践を通じて～」
2. Siree RIEWPAIBOON （Kyushu University, Graduate School of Design 九州大学大学院芸術工学府)
   The In-Between Approach to Art and Care: Towards a Care-Based System for an Ageing Japan
3. CHEN XINYI（九州大学芸術工学府・博士後期２年）
   Artistic Practices Supporting Elderly Women's Well-being and Cultural Participation: The Case of the “Xiao Fang Project”
4. 吉田隆之（大阪公立大学大学院都市経営研究科・教授）
   「アートマネジメント人材育成事業でのルーブリック評価の有用性 ―大阪公立大学「EJ ART」プログラムを事例に－」

5. 原晶穂（東京大学大学院人文社会系研究科文化資源学専攻・修士２年）
「商業レコード制作における専門人材養成のための教育システム設計ー専門学校におけるシラバスに注目してー」

分科会Ⅱ－B　多文化共生（会場：C201・202 教室）
座　長：中村美亜（九州大学）
副座長：南田明美（静岡文化芸術大学）

発表者：
1. 覃剣倫（広州南方学院アートビジネスマネジメント学科・専任教師）
「中国の劇場における外国人観客向けサービスのアクセシビリティに関する研究」
2. 鈴木恵梨香（（公財）浜松国際交流協会）・澤柳美千子（浜松市鴨江アートセンター）
「外国人集住都市浜松における公立文化施設職員の多文化共生への意識 ～「文化施設スタッフ向け多文化対応力向上講座 2024」アンケート結果から」
3. 張藝逸（東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科・博士１年）
「多文化共生をめぐるコミュニティ・シアターの公共性ー東京芸術劇場 TBTP の実践を中心に」
4. 平田未季（北海道大学・准教授）
「多文化演劇ワークショップの話し合いにおける劇団員の「提案」―専門性、言語的非対称性が話し合いに及ぼす影響」
5. 松本茂章（文化と地域デザイン研究所・代表）
「ものづくり県・富山にみる多文化共生の取り組みー日本語教育・モスク・ムスリム女性の診療ガイドブックー」

分科会Ⅱ－C　国際交流と海外の文化政策（会場：C203・204 教室）
座　長：川村陶子（成蹊大学）
副座長：小林真理（東京大学）

発表者：
1. 金泰勲（大阪公立大学都市経営研究科・博士後期課程１年）
「アメリカにおけるパブリックアートの変遷とその類型化－1930 年代から 1990 年代を対象としてー」
2. 藤田美季（東京大学大学院経済学研究科・博士課程２年）

「中国映画アニメ産業の形成とその要因分析―政策主導から市場主導へ―」

3. 長谷川仁美（遊花遊月 AIR ディレクター）
「文化政策不在下の草の根展覧会がいかに国際市場を牽引したか ― 上海〈ファックオフ展〉と中国現代美術の台頭」

4. 陳海茵（東京工科大学メディア学部・助教）
「日本における外国人女性アーティストの定住実践 ―中国人女性のライフコース事例から」

5. 柴田尚（北海道教育大学岩見沢校）
「新時代におけるアーティスト・イン・レジデンスの現状と課題」

分科会Ⅱ－D　芸術祭とアートプロジェクト（会場：C205・206 教室）

座　長：伊藤裕夫（日本文化政策学会顧問）

副座長：大澤寅雄（文化コモンズ研究所）

発表者：

1. 松村大地（東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科・修士 2 年）
「ポリフォニーを実現する芸術祭ディレクション/キュレーション－神戸/新長田の下町芸術祭における制度的多元主義に着目して」

2. 石田絵里香（関西大学大学院文学研究科・博士前期課程 3 年）
「多様なアクターの協働によるアートの実践の拡張的学習理論を用いた分析－ノットワーキング(knotworking)概念のアート実践への導入の検討－」

3. 神道朝子（東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科）
「地域の循環に絡まり合う生の営み：石川県珠洲市を対象としたアートプロジェクトの現在地に関する考察」

4. 藤原旅人（東京藝術大学・特任助教）
「関係人口から考えるアートプロジェクトの意義と課題」

5. 岡田智博（一橋大学ソーシャル・データサイエンス研究科・特任講師）
「芸術祭・アートプロジェクトにおいる界隈性を考察する」

分科会Ⅱ－E　地域文化資源（会場：C207・208 教室）

座　長：高島知佐子（静岡文化芸術大学）

副座長：朝倉由希（公立小松大学）

発表者：

1. 秋元幸多（東京大学大学院人文社会系研究科文化資源学研究専攻・修士課程２年）
「かるたがつなぐ地域・観光・文化ー福井県あわら市『ちはやふる Week』事業における関係者の役割と文化振興との結びつきー」
2. 野村仁志（大阪公立大学大学院都市経営研究科・博士前期課程２年）
「「祭縁」を活用した地域プラットフォーム形成プロセスの考察」
3. 小島寛大（芸術文化観光専門職大学・助教）・井原麗奈（芸術文化観光専門職大学・講師）・安藤竜（芸術文化観光専門職大学・助教）
「農山村における地域資源を活かした共創型文化事業の実践と展開―こども神楽芝居『但東さいさい』の事例から―」
4. 飯岡遼（東京大学大学院人文社会系研究科美術史学研究室・博士課程（休学中）/町田市立博物館学芸員）
「江戸切子職人とイギリスのカットグラス職人の無形文化財に対する意識比較調査」

その他

若手主催交流企画　カフェ ニチニチ荘

若手主催交流企画委員では、今回の学会で会員、および学会参加者の皆様が自由に作業したり、休憩、交流できる場に温かい飲み物を提供しようと、無料のカフェを開催いたします。セルフサービスですが各休憩時間には若手の運営メンバーがおり、皆様に提供のお手伝いをいたします。

12 月の真冬の中、温かい飲み物とともにご休憩、ネットワーキング、また作業していただけますよう、どうぞご利用ください。

日時：12 月 20 日　　9:30～18:40
　　12 月 21 日　　9:15～17:00
場所：1 号館 1 階学生食堂

問い合わせ先：カフェ ニチニチ荘 企画代表 長谷川仁美（mail: hito@fikafika.net ）

セルフサービスでコーヒー、紅茶、日本茶とお茶菓子など提供いたします。
朝の受付時間から各分科会やシンポジウムの合間の休憩時間には若手の運営メンバーがおりますが、基本はセルフサービスとなります。（足りないものなどは休憩時間にメンバーがチェック、補充予定）

発表者へのお願い

1. 事前準備について

(1) 大会参加費および会費を未納の場合は、発表資格が取り消されます。本年度及び過年度の年会費をまだ支払っていない方は、個別にご依頼した期日までに必ずお支払いいただけますようお願いいたします。年会費および学生会員に関わることは、学会 HP をご参照の上、学会事務局に直接お問い合わせください。
日本文化政策学会ホームページ：http://www.jacpr.jp

(2) 分科会によっては、座長・副座長から予稿集に掲載のメールアドレスに事前連絡がありますのでご留意ください（すべての分科会で事前連絡があるとは限りません）。

(3) 大会全体のプログラムに影響しますので、各プログラムの開始・終了におきましては、時間厳守での運営にご協力をお願いいたします。

2. 当日の機材・配付資料等について

2-1. 研究発表及び企画フォーラム

(1) 会場でのコピーサービスには対応できません。資料配布を希望される方は、事前に 30 部以上のレジュメの準備をお願いいたします。

※ 各プログラムの参加者数について、実行委員会では把握しかねますので、ご了承ください。

(2) 報告者は、プログラム開始 10 分前に会場にお集まりください。分科会では、座長・副座長・報告者による簡単な打ち合わせ等が行われる場合があります。

(3) プロジェクターの使用を希望される方は特に次の点にご注意ください。

1 各会場には、HDMI 接続が可能なノートパソコン・1 台（Windows10 ないし 11、USB Type-A）、HDMI ケーブル、備え付けプロジェクター、ワイヤレスマイクが用意されています。それ以外の機材を使用する場合は、各自でご用意ください。

※ パソコンについては、ワード、エクセル、パワーポイント等の基本ソフトについてはインストールされていますが、それ以外のソフトをご使用の場合は、ご自身でパソコンを持ち込んでください。

2 機材を利用される報告者は、スライドのデータを USB に入れてご持参ください。プログラム開始 15 分前に会場にお集まりいただき、各自、会場設置のノートパソコンでスライドの操作確認をお願いします。

3 ご自身のノートパソコン（Mac 等）をご使用になる場合も、プロジェクターへの接続が滞る場合がありますので、プログラム開始 15 分前にお集りいただき、操作確認をお願いします。HDMI 接続にコネクタ等が必要な場合は、必ずご自身で持参ください。接続状況によっては、会場設置のノートパソコン（Windows）をご使用いただく場合もございます点、ご了承ください。

4 開催校では機材の動作確認等含め、できるかぎり報告者への協力をいたしますが、機材操作等については報告される方の自己責任にてお願い致します。特に、コンピュータ関連の接続や、データ形式等にご注意ください。万が一、機材が作動しない場合に備えて、印字原稿やスライド印刷資料をご用意頂く等の方策を取っていただくことをお勧めします。

5 企画フォーラムで複数の PC 利用を希望される場合は、2 台目以上は企画者のほうでご準備をお願いいたします。

6　会場には Wi-Fi があります。パスワードなどの接続情報は会場に掲示します。

2-2. ポスターセッション

1　ポスターは各人が印刷の上、当日ご持参下さい。掲示場所は、実行委員会の指示に従ってください。１m離れても判読できる程度の文字の大きさにご留意ください。

2　コアタイム（12月21日（日）12:10～12:55）は、必ずご自身のポスターの前で発表して下さい。

3　音の出る発表資料は不可となります。

懇親会・昼食・宿泊

（1）懇親会

懇親会は予約制となります。必ず事前申込みをお願いします。

懇親会会場

カフェ エトランジェ・ナラッド

（奈良市上三条町 23-4 奈良市観光センター「ナラニクル」内）

申込方法

大会参加申込とあわせて Peatix からお申込みください。

申込締切：12 月 6 日（土）18:00（厳守）

参加費（会員・非会員同額）

一般（会員・非会員ともに）：6,000 円

社会人学生（学業とは別にフルタイムの職業に就く者、会員・非会員ともに）：4,000 円

その他学生（会員・非会員ともに）：2,500 円

＜懇親会会場アクセス＞

大学正門を出て左折（①）、直進してインド・ネパール料理店がある交差点を右折（②）、「高天交差点」（③）を越えてさらに直進し、右手側になります。

＊県立大学から懇親会会場まで、徒歩約 20 分

(2) 研究大会会場（奈良県立大学）の各教室・ラウンジは飲食可能です。昼食は各自でご用意ください。大学近辺にコンビニや飲食店が少ないため、**昼食をご持参のうえご来場いただくことをおすすめします**。なお、学内の食堂は定休日です。

＜参考：大学付近のコンビニ等＞

(3) 12 月 20 日（土）昼休みの時間帯に、若手主催交流企画「学会ビギナーズ・ランチミーティング」が開催されます。詳細は下記をご参照の上、大会申込とは別にお申し込みください（Peatix での申込はできませんのでご注意ください）。

- 日時：2025 年 12 月 20 日（土）12:05～12: 55
- 場所：1 号館 1 階学生食堂
- 参加費：1 人 1,500 円（お弁当＋ワンドリンク、当日会場で現金にて徴収）
- 申込先：https://forms.gle/gR7bPWtpXFR4qCKu8
- 定員：30 名（要申込）、**申込締切：2025 年 12 月 12 日（金）**

(4) 宿泊、列車・飛行機チケット等についての斡旋は行っておりません。お早めの予約をお願いいたします。

物販

(1) 本大会では原則、書籍等の物販は取扱いいたしません。
(2) 文化政策研究上、貴重な文献・資料であり、かつ書店やアマゾンなどの流通に乗らないものの場合に限り頒布していただけます。
(3) 頒布に際しては、関係者ご自身が販売に関する実務を担当され、実行委員会は場所と机の提供のみ行います。会場への事前送付は受け付けられません。
(4) チラシ類も実行委員会は場所と机の提供のみ行います。関係者ご自身が設置、撤去をお願いいたします。
(5) 資料等の頒布、チラシ類の設置を希望される方は 12 月 6 日（土）までにメールで事務局に申請をお願いいたします。

アクセス

奈良県立大学
〒630-8258　奈良市船橋町 10 番地
https://www.narapu.ac.jp/university/access/

JR 奈良駅（東口）・近鉄奈良駅（7 番出口）より徒歩 10 分
※車両での来校はご遠慮ください。

奈良県立大学　アクセスマップ

（奈良県立大学 HP（https://www.narapu.ac.jp/university/access/）より）

キャンパスマップ

奈良県立大学アクセス情報

奈良県立大学大学 HP（キャンパスアクセスマップ）
https://www.narapu.ac.jp/university/access/

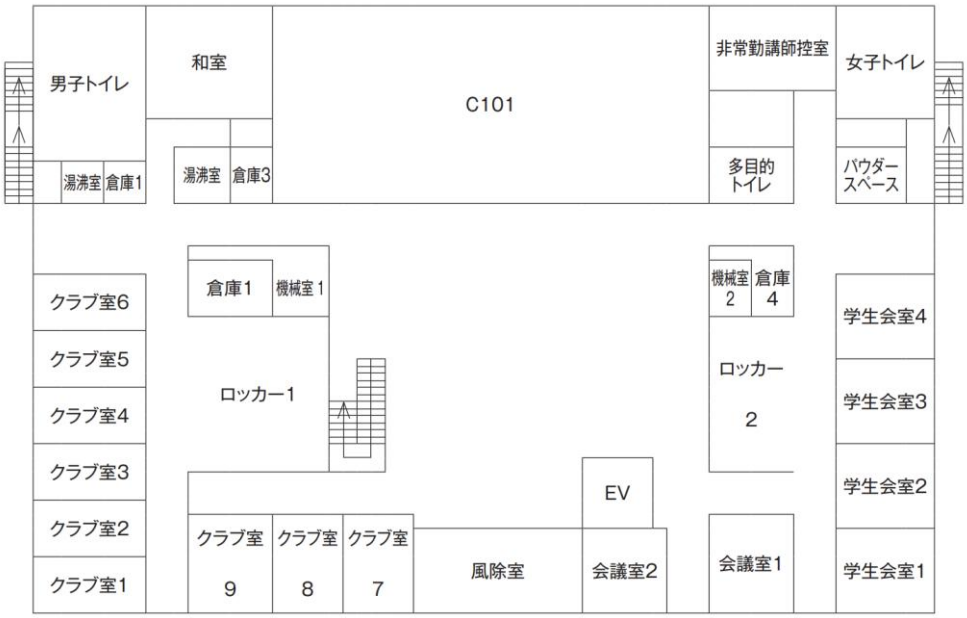
キャンパスマップ
https://www.narapu.ac.jp/university/campusmap/

会場平面図

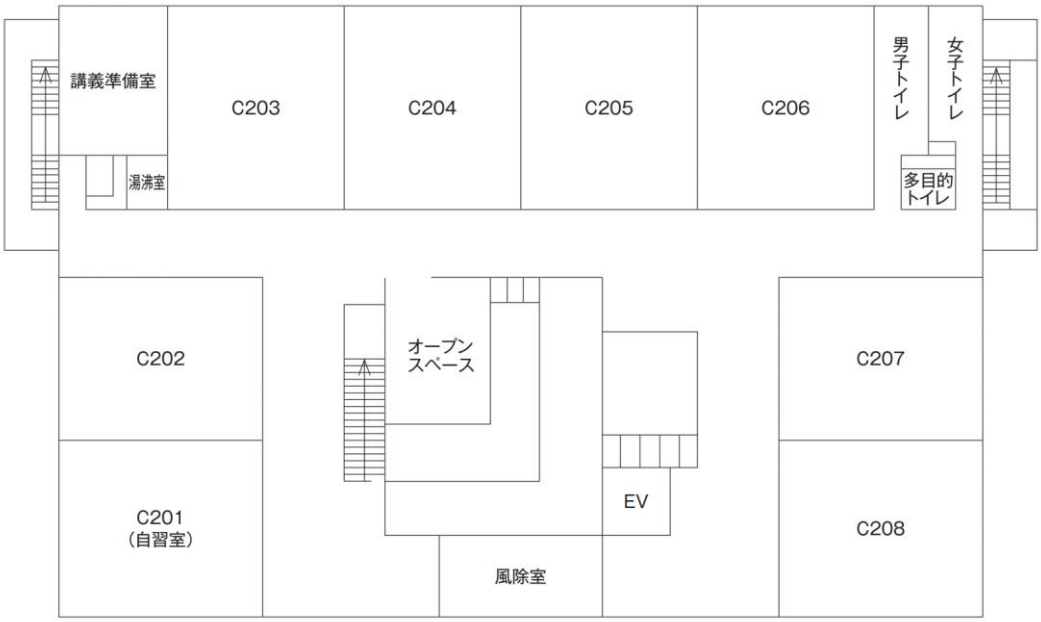
本研究大会の会場は、奈良県立大学です。企画フォーラム及び分科会、総会はコモンズ棟、開会式・表彰式及びシンポジウムは３号館２階の多目的ホールが会場になります。なお、すべての受付は３号館１階入口になります。

コモンズ棟（企画フォーラム・分科会等会場）

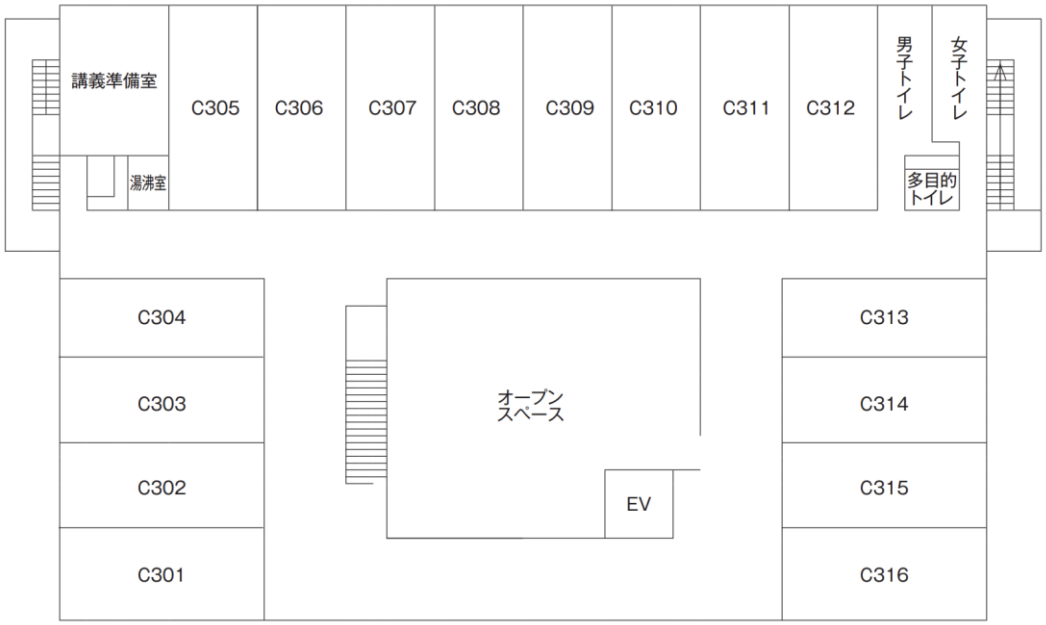
1階



2階



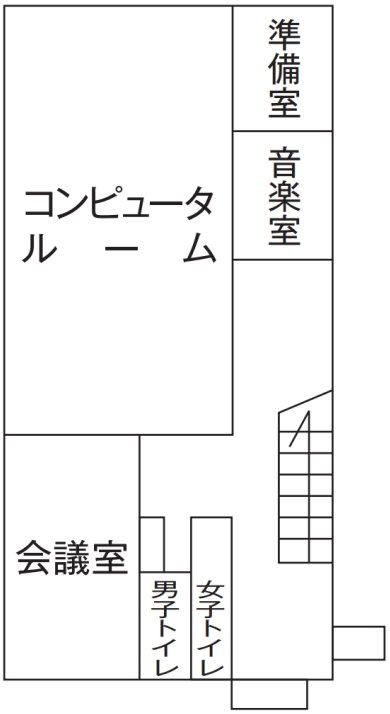
3 階



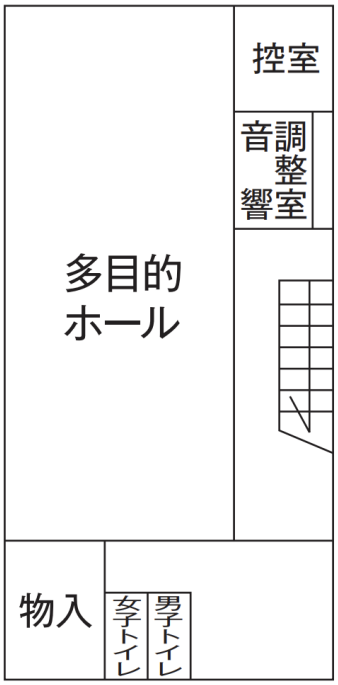
3 号館（開会式・表彰式、シンポジウム会場）

Ⅲ号館

1 階



2 階



エクスカーション・プログラム

１．「継続する日本文化　古代から伝える」（明日香村コース）
12 月 19 日（金）12:30－17:15　定員 25 名（先着順）
参加費：2,500 円（一般・学生／会員・非会員）
集合：12 時 30 分に近鉄大和八木駅　　解散：17 時ごろ、近鉄大和八木駅
※小雨決行、雨天中止

明日香村では古代の奈良を、橿原考古学研究所では現代に至る文化の継承を体感。
【スケジュール（予定）】
ナビゲーター：松本耕士（奈良県知事公室万博推進室・プログラムディレクター）
12:30　　近鉄大和八木駅集合
13:00　　四神の館（文化庁同館調査官による案内）
13:40　　明日香村役場（森川明日香村長との懇談）
14:20　　石舞台古墳（ボランティアガイドによる案内）
14:50　　飛鳥寺（住職による案内）
15:30　　橿原考古学研究所（60 分）
　　・出土遺物整理作業の視察
　　・附属博物館の見学
16:45　　重要伝統的建造物群保存地区　今井町（徒歩もしくは車窓からの見学）
17:15　　近鉄大和八木駅解散

２．鹿寄せ・にぎり墨体験ツアー
12 月 22 日（月）9:00－12:00　定員 25 名（先着順）
参加費：3,000 円（一般・学生／会員・非会員）
集合：9 時に奈良国立博物館前　　解散：12 時ごろ、古梅園（近鉄奈良駅から徒歩６分）
※にぎり墨体験では、つくった墨を後日配送するため、申込時に配送先の住所を入力いただきます。
※小雨決行、雨天中止

ホルンの音色で鹿を呼び寄せる「鹿寄せ」と、室町期から続く製墨工場での墨づくり体験。
【スケジュール（予定）】
ナビゲーター：山本雅美(奈良県立美術館)・荒益克文（奈良市文化振興課）
9:00　　春日大社境内　飛火野（とびひの）（鹿寄せ）
9:45　　移動（徒歩またはバス）
10:30　　古梅園（奈良墨工場見学・にぎり墨体験）
12:00 頃　　古梅園で解散（奈良市椿井町７）

申込方法

11月1日（土）12:00より受付開始、先着順受付、定員になり次第締切。

1．「継続する日本文化 古代から伝える」（明日香村コース）
　申込フォーム：https://forms.gle/nZFTYTjHDFkGUjYB6

2．鹿寄せ・にぎり墨体験ツアー
　申込フォーム：https://forms.gle/pDph1SbdGugedUhEA

※申込後、参加者にはご連絡を送ります。返信がない場合はご連絡ください。

※キャンセルの場合は必ずメールでご連絡ください。

※参加費は、当日の集合場所で徴収します。
　現金のみとなりますので、お釣りのないよう準備ください。